



東京湾再生官民連携フォーラム 令和5年度 第2回企画運営委員会 議事メモ

1. 開催日時 令和5年9月6日(水) 15:00～16:30
2. 開催場所 財団法人みなと総合研究財団 3階会議室
(東京都港区虎ノ門3-1-10 3F) web参加者も含むハイブリッド開催
3. 議事次第
 - 《審議事項》
 - (1)政策提案 (第三期)指標についての政策提案(案)
 - (2)令和5年度総会議事次第(案)について
 - (3)企画運営委員会 委員の選任及び企画運営委員長の選出について
 - 《報告事項》
 - (1)PT活動報告
 - (2)令和4年度 決算・監査修正報告
 - (3)東京湾大感謝祭2023開催(案)/(感謝祭2023 マッチング編・CSR-NPO 未来交流会)について
 - (4)広報:東京湾の日、第3回川柳&photoコンテストについて
 - (5)冊子「東京湾の未来へ 2013-2032」の配布について(冊子を活用した寄附のお願い)
4. 出席者 (敬称略)

來生議長、佐々木委員※、中村委員、岡田委員※、山口委員※、齊藤委員、工藤委員、田久保委員※、芝原委員※、竹山委員、寺元代理、服部代理※、佐藤代理※、青野代理※、木村委員※、粕谷代理※、武井代理※、針谷代理※、和田委員※、朝倉代理※、石原代理※、細川代理※、佐藤代理※、齋藤委員※、山内委員※、石川代理※、板戸委員※、細川(事務局)、28名出席 (このうち※印がZoomにて参加)
5. 議事概要
 - 5-1 開会
 - (1)事務局:出欠および資料の確認
出席者名簿、議事次第を含めた配布資料の確認
 - (2)來生議長:開会
 - 5-2 審議
 - 《審議事項》
 - (1)政策提案 (第三期)指標についての政策提案(案)



【決定事項】

(1)政策提案（第三期）指標についての政策提案(案)

『東京湾再生行動計画（第三期）に係る指標 PT からの指標に関する提案』は承認された。

【審議状況】

事務局: 審議資料1の説明。

東京湾再生行動計画(第三期)の初年度に、再生推進会議に提案できることは意味がある。政策提案の内容は、第三期の東京湾再生行動計画の関連する施策に該当させて、その進捗状況や成果の評価となる指標を提案している。

政策提案の承認手順では、①企画運営委員会委員への照会と委員会承認、②フォーラム会員への照会と総会での承認、の2段階の議論を経ることになっている。今回提案の内容について、みなさんの意見を効率よく早く集約反映するために、最初に、予め企画運営委員への意見照会を行い、修正案の委員会審議を行う。その後、フォーラム会員への意見照会を行い、最終の政策提案の総会審議を予定している。事前の意見照会を取りまとめて参考資料として提示している。参考資料・「意見照会資料」の表が集約したご意見になる。

このようなご意見を踏まえて、政策提案を検討していただき、修正の場合はその方向性を示し、総会への提出案を準備できるように審議をお願いします。

来生議長:岡田 PT 長から詳細の説明をお願いします。

岡田 PT 長:このタイミングで修正案を考えるという理解でよろしいか

事務局:

誤字等の簡単な修正の場合は、この場でお願いします。提案を大きく変える場合は、方向の修正提示をお願いします。

岡田 PT 長:

照会に対応して回答いただいたご意見に対する対応案を、「意見照会第一次対応_資料 3_指標 PT(案)」にまとめた。資料に添い説明する。

対応行・表の「指標」という言葉

最初に中村先生のご意見の「目標値」について、ご指摘のように「値」に該当しない箇所もあったので、修正を考えている。

一つ目の「底生生物の生息環境」を「底生生物からみた環境保全度評価」に変更、「下水道対策による負荷量の削減」は、「下水道対策による負荷量の削減量」に変更する。「水遊び・環境学習イベント」は、「水遊び・環境学習イベントの開催数、参加者数、開催場所数」と定量的に扱える名前に変更する。



表の「目標値」

「『目標値』としているが(値ではなく)『傾向』を示している」点については、第二期では目標値と傾向が混在していたが、今回は、整合性が取れないので、「目標値」を「目標値又は目標」に書き直す。

「下水道対策による負荷削減量」の目標設定

「流入負荷」についての指摘には、「負荷量を従来通り削減する一方でよいのかどうか、吟味が必要なタイミング」と追記する。PT 内でも議論になっていた箇所、説明が不足していた。また、「単に COD の基準が達成されていないから削減を続けるとする姿勢」と記載しているが、提案書の中では説明が不十分であった。

実体上、「東京湾再生行動計画(第三期)においては、第9次総量削減基本方針と整合を図りつつ、必要な施策を推進していく方針」で作成されている。このなかで、「東京湾の第9次総量削減基本方針」では、水環境の改善を図っていくとしている。

第9次の総量削減方針を踏まえて、東京湾再生行動計画(第三期)においては、「従来のCOD, TN, TP 負荷量の削減を継続的に推進していく考え方を見直し、特に TN, TP については栄養塩類の偏在化を課題として認識したうえで、第三期で示す「下水道対策による負荷削減量」を設定することとしています。」と記載している。今回の提案書では、この観点に関する記述が抜けているので、「解説書」部分で記述を拡充する。

「全窒素、全リン」の設定

二つ目の「全窒素、全リン」の目標設定については、PT 内部も議論になっていた。「単純な目標設定になっていないか、総量削減と矛盾していないか」という指摘に対して、栄養塩を減らす方法が良いのか、それとも、貧栄養、偏在化が問題ではないか等議論を行った。東京湾では依然として、赤潮や貧酸素水塊、青潮、底質のヘドロ化等、富栄養化の現象が発生しているところから、水域によっては、依然として、全窒素、全リンの低減は重要であるとの結論に至った。本提案指標では、「赤潮や貧酸素が発生する水域に評価対象範囲を限定し、赤潮や貧酸素水塊が発生する海域において、TN, TP の減少を目標とする。」と「解説書」では記載していたが、意見照会をかけた提案書では、「赤潮や貧酸素水塊が発生する海域において」の文言が、抜けていた。単に、「TN, TP の減少を目標とする」となっていたので、「赤潮や貧酸素水塊が発生する海域において減少傾向を目標とする」という方向に修正する。

指標(底生生物の生息環境)

千葉県からのご意見は、「底生生物による環境保全度が向上の傾向を示す」としていたが、意味が分かりにくく、中村先生のご意見と合わせて、「底生生物の生息環境」を「底生生物からみた環境保全度評価」に修正する。



來生議長:修正に関するご意見等をお願いする。

中村委員:

ご対応ありがとうございます。最初の2つについては、文言の問題で、PT 長の回答で解決している。修正文言に賛成する。後半の二つについては、PT 内での議論があったのは、提案書だけでは見えなかったが、その議論こそが重要と思う。それを踏まえたいうえでの修正案の提示がなされたので、その方向でよろしく願いたい。今回は、これでよろしいと思う。

第10次の総量削減の議論が始まっている。もっと踏み込んだ施策も展開される可能性もあるので、「国の総量削減の施策と整合性を図りつつ」という文言は非常に重要で、そこをはずさないように願います。

千葉県 針谷代理:

修正案ありがとうございます。分かり易くなったので、修正案をお願いする。

來生議長:

他の委員のかたで、提案プロセスや提案内容についてなど、ご意見があれば発言をお願いする。特にないようなので修正案に同意いただいたと理解した。

昨日まで意見照会を実施し、弾力的な運用によりプロセスは簡略化しているが、提案の内容について会員の皆様に上手くフィードバックが担保されることが重要と思う。9月30日の総会に向けて作業を進めていくことにする。

次の議題、令和5年度総会議事次第(案)について事務局より説明をお願いする。

《審議事項》

(2)令和5年度総会議事次第(案)について

【決定事項】

(2)令和5年度総会議事次第(案) について承認された

【審議状況】

事務局:審議資料2の説明。

フォーラムのルールでは、総会の議事の項目は、事前に企画運営委員会で承認を得ることとしている。審議資料2「総会議事次第(案)」に事務局案を示した。皆様の審議ご承認をお願いしたい。

次第案では、まず総会毎の議長選出を行い、議題を採択して、議事録署名人を選択して、議事審議のスタートとなる。今までの慣例で、「報告議題・フォーラムの事業について、およびプロジェクトチームの活動について」を先に行い、そのあとに審議議題の審議となり、「指標の政策提案」、続いて「役員の改選」の2議題を審議する。



先ほどの政策提案の承認を踏まえて、次の総会では、審議議題として、東京湾再生推進会議への政策提案を取り上げたい。また、改選期を迎えたフォーラム役員は「議長」と「監事」であり、新役員の選定をお願いしたい。その後、報告事項に戻る。

来生議長：

ご意見ありましたらお願いします。特にご意見なしということで、事務局(案)を総会の議事次第とする。

次に審議議題(3)の説明を事務局からお願いします。

《審議事項》

(3)企画運営委員会 委員の選任及び企画運営委員長を選出について

【決定事項】

(3)企画運営委員会 委員及び企画運営委員長が選出された。

【審議状況】

事務局：審議資料3の説明。

企画運営委員については、「任期2年、再任を妨げない」のルールとなっている。前回から2年が経過し、新たに選任をお願いします。そのうえで、新しい企画運営委員のメンバーで、企画運営委員長を互選で選んでいただくことになる。審議をお願いします。よろしければ、事務局から新委員の選任についてご提案したい。新委員は、全員、従来の委員の再任をお願いしたい。

来生議長：

ご質問、ご意見をお願いします。特にご意見がないようなので、提案を承認する。企画運営委員会委員は、全員再任とする。

事務局：委員長の選任について事務局から提案する。来生委員長の再任、ご就任をお願いします。

来生議長：

ご意見ご質問あればお願いします。とくにないので、事務局提案を承認とする。また、委員長への就任につき、了承する。

つぎのPT活動報告に移る。

《報告事項》

(1)PT活動報告

モニタリングPT (古川PT長/事務局代理) 報告資料1-1

モニタリングPTは、再生推進会議と共同して東京湾環境一斉調査を実施している。令和5年



度も8月9日に、東京湾再生推進会議モニタリング分科会と連携して実施した。非常に多くのメンバーが参加している。企業67社の参加、また国の機関、自治体等も参加していただいている。今回、生物の調査、環境啓発活動等のイベント調査を実施する。

生き物生息場づくりPT(佐々木PT長) 報告資料1-2

令和4年度の活動報告および今後の計画について報告する。

7月19日に第2期 第16回PT会議を開催した。内容は「養老川河口見学会報告」、「干潟浅海域を生息場とする有用魚介類の生活史に与える貧酸素水塊の影響解明と軽減策の検討」に関する話題提供があった。

後者は千葉県水産総合研究センターから新たな政策提案に向けて提案された。千葉県沿岸の直立護岸沿いにおける小規模な浅場マウンドの造成に関わる、自然と思われる小規模なマウンドを含む、同沿岸域での興味深い調査結果であった。もともと自然にある小規模なマウンドで、その特徴を紹介していただいた。砂地という点、貧酸素水塊の軽減などの点など、今後、生息場づくりということで検討していく価値がある。

4月16日、習志野の海を守る会のご協力を得て、茜浜のPT見学会を実施した。

7月3日、再生目標生物WGのご協力を得て、養老川河口見学会を実施した。河口は砂地でよい干潟になっていて土砂などの活用が検討できる議論が行われた。現地は、工場が間近に迫り、騒音や臭気が気になる環境ではあるが、良質の砂の干潟が広がっている。少し上流側に行くと旧フェリーターミナルの泊地が残っており、泥干潟で、多くの生き物が見えた。このような場も貴重だと改めて感じた。

さらに上流に行くと養老大橋近くには、葦原と泥干潟が広がっており、こちらは魅力的な水辺環境となっていた。近くの「はまぐりの碑」には京葉臨海工業地帯となる前の漁業の歴史が刻まれている。

令和5年度の計画については、10月の東京湾シンポジウム・ポスターセッション、10月の大感謝祭におけるパネル展示を検討している。また、10月下旬にはPT会議と見学会をセットにした合宿企画を検討している。2017年以来なので、是非、実現したい。

さらに、毎年恒例となっているマコガレイ産卵場調査を12月26日に、3月末のマコガレイ釣り調査を予定している。

指標PT(岡田PT長) 報告資料1-3

PTをリニューアルして「東京湾再生のための行動計画(第三期)の指標検討PT(略:指標PT)」を立ち上げた。

ミッションは、①東京湾再生のための行動計画(第三期)の全体目標を達成するため、多様な主体による種々の活動を適切に評価できる指標を、多様な関係者と協議して検討・提案する。

②提案後は、多様な主体が本指標を効果的に活用することをサポートし、全体目標が達成されることを支援する。

指標PT第三期は、7/11にキックオフしたばかりで、メンバーは、大学・研究機関・4名、市民・



NPO・4名、民間・5名、公官庁・13名現在、26名により活動を行っている。

先ほどご提案させていただいた指標提案に向けて、議論を重ねた。4/11から2週間に1回の割合で行い、その成果として先ほどの提案書及び付随の解説書の作成となった。

江戸前ブランド育成PT(牧野 PT 長/事務局代理報告) 報告資料 1-4

活動方針は、「まずは東京湾の海の幸のことを知っていただき、食べていただく」ことこそが大切。「東京湾の環境を考えたライフスタイルへの変化を促し、それが結果的に東京湾の再生に貢献するエコでおいしい江戸前、というブランド性を生む。」

とにかく水産物を知っていただき、食べていただき、体験していただく方針で、メンバーの皆様も積極的に活動している。

大日本水産会魚食普及推進センターがHPで広く、市民のアクセスを呼び込み、また2023年11月発売予定の『ハヤタケ先生の魚食大百科(少年写真新聞社)』が刊行予定になっている。(一財)東京水産振興会では、「東京湾の逆襲」冊子を題材にした勉強会など、よこすか海の市民会議・よこすか海遊クラブなどが活動している。各メンバーが蓄積してきたオンライン資料はPTの資産になる。これを江戸前PT デジタル資料館などの形で公開し、他のPTにも活用できるようにしていく。大感謝祭で「江戸前の恵み」コーナーとステージイベント等を計画している。

多摩川河口干潟ワイズユースPT(竹山 PT 長) 報告資料 1-6

令和5年度の活動報告で、春季環境調査実施(3/24)、初夏環境調査実施(6/16)について簡潔に説明する。もともとこのPTでは、多摩川周辺、多摩川の東京都よりで生物調査を実施してきた。大師河原干潟館の方、大田区環境マイスター、東京都市大学、民間と共同で実施してきた。3月の調査では、2019年の台風により地形が変化している。資料の写真は採貝している方の収穫物で、ハマグリ、マテ貝などで小さい貝は多い、シジミやアサリが少ないデータ結果となっている。漂着物になるが雌株のある状態で、流れてきた。羽田沖を含めて今後、とらまえて行きたい。

初夏環境調査実施(6/16)は、風呂田先生、大師河原干潟館の方、海洋大学の参加を得て実施した。また、スコープ100(大師河原干潟館主催)に参加(6/17)してきた。

今後の予定としては、10月をめどにPT内での報告会を実施する。東京湾大感謝祭出のパネル出展と9月末～10月秋調査、1月～2月冬季調査、3月～4月春季調査を実施する予定にしている。この2年分の調査結果を整理していく。

令和6年春季には、一般を対象とした観察会を企画し、周辺企業や背後流域市民、自治体関係者、自治体関連研究機関との調整を進めていく。



東京湾の窓PT（芝原 PT 長） 報告資料 1-5

令和5年度の活動について、PT 会合を5/24(水)、6/28(水)、9/5(火)に開催している。

会合内容は、「東京湾再生行動計画(第三期)に合わせたPT 活動方針の検討」を進めている。今までに、東京湾スタンプラリーの自治体連携の検討、Facebook「ぐるっと東京湾！自然と魅力のワクワク情報」運営、東京湾大感謝祭の参加出展準備、生物調査研修(10/2)の企画・実施してきた。

第三期に合わせて、取り組み方法や既に提出している政策提案に沿い、長期的な方向性を検討し進めていく予定にしている。

来生議長:全体を通してご意見を願います。ないようなので次に進める。事務局から願います。

(2)令和4年度 決算・監査修正報告

事務局:報告資料-2、2-1

令和5年度第1回企画運営委員会で決算の承認をいただいたが、その後セブンイレブン記念財団と助成金についてすり合わせを行った。各費目において、記念財団さんの会計ルールがあり返納金が生じるが、すり合わせ検討の中で減額していただけた。返納金が¥33,000 減り、全体の収支は黒字の増額に修正している。返納金は、¥138,917-となった。この修正に関しては、風呂田、大浦監事には再度確認していただいた。

来生議長:

費目の解釈でセブン-イレブン記念財団側で、弾力的な解釈をいただいた。返納金¥33,000 減を監事に確認してもらった結果となった。修正は報告処理とさせていただく。

(3)東京湾大感謝祭 2023 開催(案) / (感謝祭 2023 マッチング編・CSR-NPO 未来交流会) について

山縣委員・寺元代理(東京湾大感謝祭副実行委員長) 報告資料 3

今年の東京湾大感謝祭は、新体制の下、10月14日、15日、横浜市役所アトリウム会場にて開催する。プログラムの内容が固まりつつあり、出演者も決まり本番を迎える準備が整ってきた。

東京湾大感謝祭事務局:細川事務局長

追加説明する。報告資料3はプレスリリース資料です。共催、後援、協力として、様々な団体から支援をいただいている。開催規模として出展者40社、入場者1万人を想定している。

ステージ・プログラムは、「東京湾・地元自慢」で各自治体さまによる活動紹介をしていただき、小学生や中学生の登場など、世代を超えて議論の場を提供している。またパネルディスカッションでは東京湾を磯部先生に語っていただくなどの用意をしている。

連携イベントは、「東京湾クルーズ」や「東京湾シンポジウム」等協力をいただいている。



來生議長:

今年は場所も変わり横浜市アトリウムとなり、よろしく願います。次に進める。

(4) 広報:東京湾の日、第3回川柳&photo コンテストについて

事務局:報告資料4

第3回川柳&photo コンテストの状況を説明する。現状、川柳は500作品以上の応募が来ている。川柳に関しては、一般部門とキッズ部門があり、企画運営委員の皆様には、川柳の審査でご協力をお願いする。

(5) 冊子「東京湾の未来へ 2013-2032」の配布について(冊子を活用した寄附のお願い)

事務局:報告資料5

4月印刷完成後からお世話になった方や著者等に配布してきたが、フォーラムホームページに会員の方々への配布案内を始める。冊子は無料とするが、お読みになり気持ちが動いた方には、寄附をお願いする。寄付金は読者のかたの「気持ち」とする。

來生議長:

以上で、予定していた審議、報告となる。ご意見・質問をお願いする。特にないようなのでこれで終了とする。「どうもありがとうございます。」

5-3 閉会